

山ごころ

大滝せせらぎ

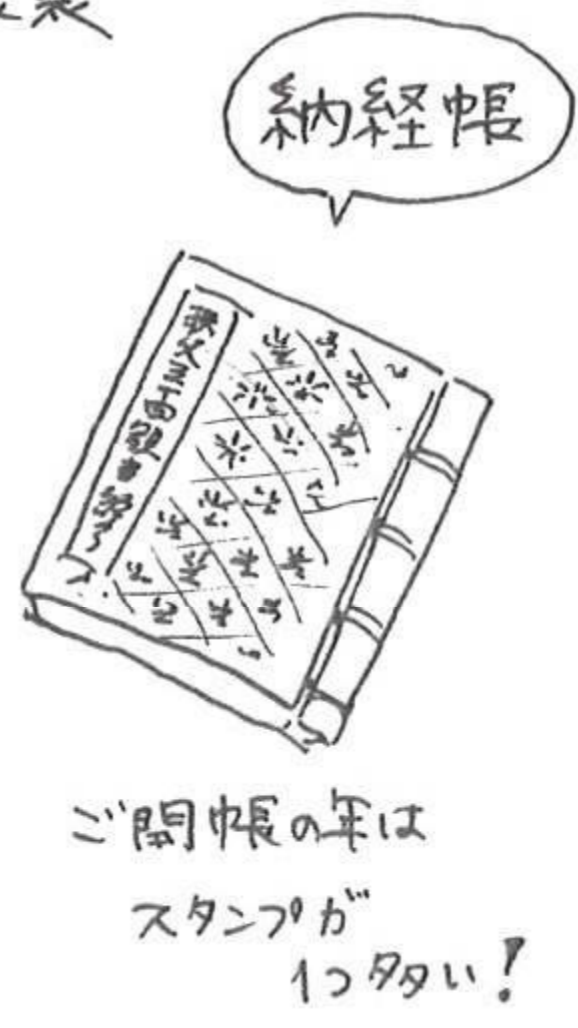
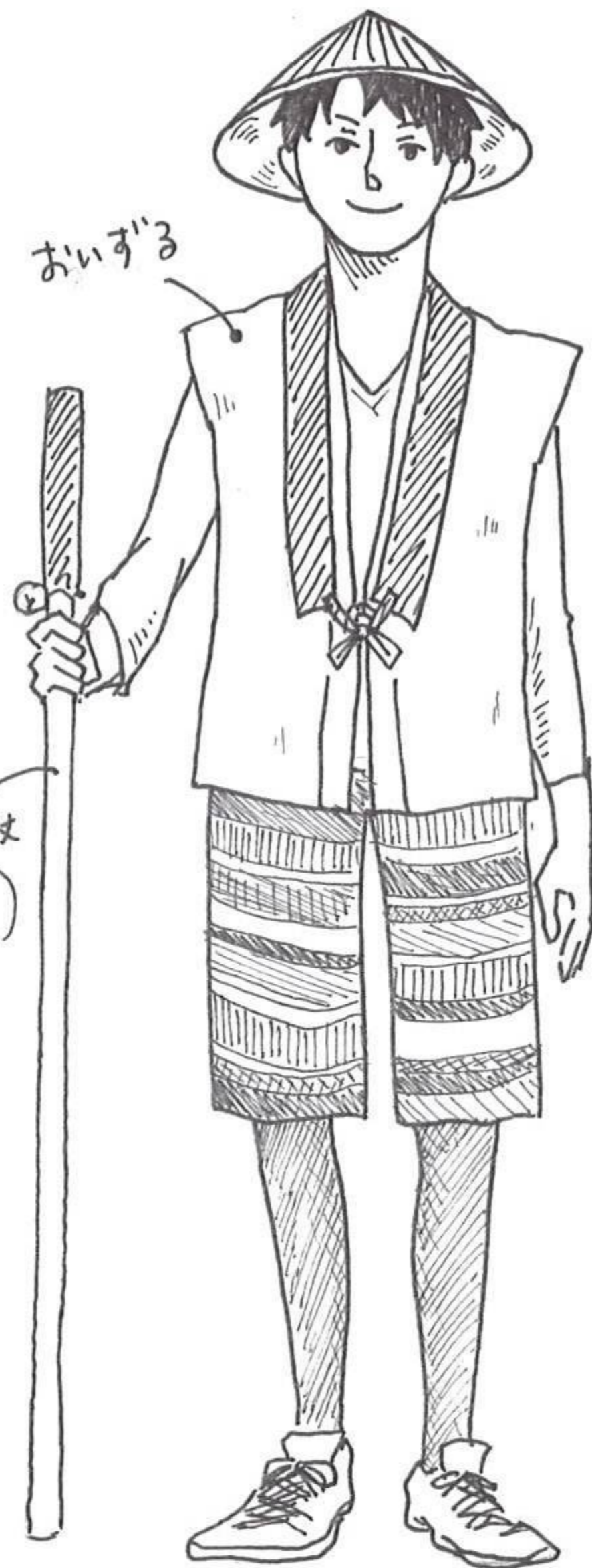
黒ごころ

はたおと秩父

秩父市

地域おこし協力隊 たちよ

No.19
6月号



ちよこ
巡りスタイル

お茶摘み

5月19日、20日に強石にてお茶摘みを手伝いました。日差しが強く少し汗ばむ陽気でしたが、時折涼やかなそよ風が吹き、気持ちよく作業ができました。お茶の手摘みをしているとお茶の良い香りがします。また晴れた空には鶯の可愛らしい声が響き渡ります。この様な気持ちのいい体験は、里の暮らしでしか経験できないものだと思います。しかし延々とする作業で体力も必要なので、お茶摘みを辞めてしまった方もいます。今後はお茶摘みの手伝いを行いつつ、都市住民向けのお茶摘み体験もしていただきたく考えています。お茶を摘まなくなると、摘みたいけれども人手が足りない、といったことがありましたら、ぜひご連絡ください。

現在、製茶作業はお茶屋さん
に頼んで機械で仕上げていますが、
昔は全て自宅で手作業で作っていたそうです。



奥秩父山開き

6月1日、霧凇り峰にて奥秩父山開き式が行われました。雲一つ無い晴天で、秩父市街では35度近くまで上がった陽気な一日でしたが、山の中は比較的涼しく、また見晴らしも良く、最高の登山日和でした。式典では三峯神社の神職が秩父宮殿下御夫妻のレリーフを前に祝詞を奏上し、参加者全員で山の事故防止をお祈りしました。

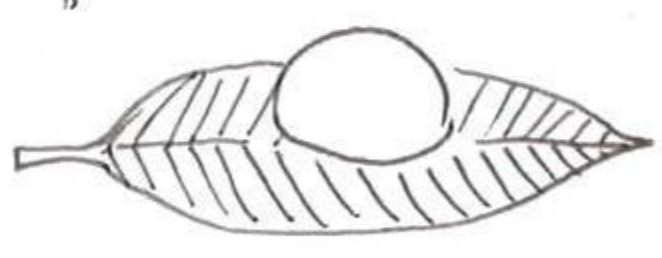
山の事故は奥秩父の山々でも毎年起きています。事故防止には余裕のある登山計画を立てることや、必要な装備を整えることが重要です。しかし1日にも三峯神社奥宮へ参拝される人の中には、スニーカーや短パン、スカート等、十分な装備をせずに登山される方が目立ちました。山の事故は全て自己責任です。これから登山を計画している方は、余裕のあるプランを練り、必要な装備を整えてから入山してください。

とちっぴ饅頭

5月29日、栃本にて「とちっぴ饅頭」について教わり、また実際に作ってみました。とちっぴ饅頭とは、柏餅のような葉で餅を包んだお饅頭で、柏の代わりに栃の葉を用いています。多くの地域では柏を用いますが、大滝には柏の木があまりありません。一方で栃の木は実を収穫するため好んで植えられており、また、葉が柏のように大きく香り豊かのため、用いられてきたそうです。

とちっぴ饅頭を頂いたのは今回が初めてだったので、柏よりも良い香りがして、また餡子ともよく合い、とても美味しかったです。今後大滝特産の郷土料理として、広く紹介していきたいと思います。

冷めてからも美味でしたか
蒸したてが一番美味しかったです。



ナイトバザール

秩父市街のみやのかわ大通りでは、毎年偶数月（4月、6月、8月、10月、12月）の第3土曜日に「みやのかわナイトバザール」を開催しています。このイベントは「金をかけずに知恵を出し」、「ナイトバザールを自分たちが楽しむ」、「加減でゆるしをモットーに1987年から途切れることなく開催している」とも賑やかで楽しいイベントです。

来る6月のナイトバザールでは大滝の協力隊として出店することになりました。出店を出すのは大学の文化祭以来ですが、今まで教わって来た大滝の美味しい料理を提供したいと思えます!! ぜひお立ち寄りください。

イベント詳細

- ・場所：みやのかわ大通り（国道299号）及び周辺
- ・日時：6月21日午後7時〜

秩父札所甲午歳総開帳 一番誦経山四萬部寺

すきょう せん しま ぶ じ

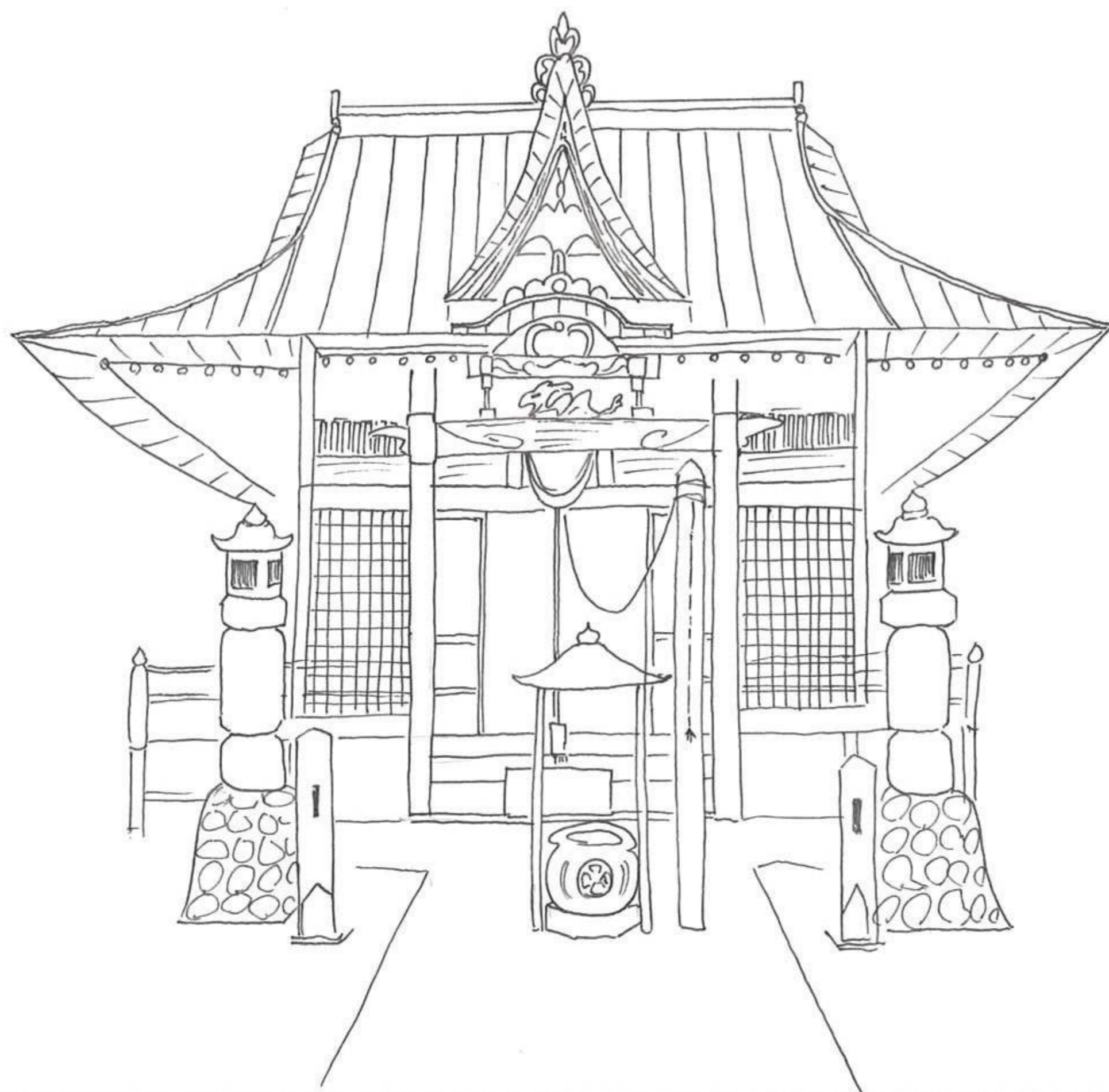
秩父札所一番、四萬部寺の本堂は元禄10年(1697年)に建立された
落ち着きのある建造物で、埼玉県の有形文化財に指定されています。

四萬部寺の名の由来は、性空上人の弟子幻通が4万部の仏典を
読経して、経塚を築いたことからきています。

毎年8月24日には大施食会が行われ、関東の三大施食の一つ
として有名です。(施食会とは生前に犯した罪によって飢え苦しむ
餓鬼道に堕ちた無縁仏様を供養する法要のことです。)

・コメント：発願の寺ということで、参拝客で賑わっていました。

また、納経帖や白装束等、参拝携行品の取り扱いも充実
していました。(吉本)



数は四萬部の寺のいにしえ

ありがたや一巻ならぬ法のはな

秩父札所甲午歳総開帳 二番大棚山 真福寺

おおだな さん しんぶく じ

真福寺は山道を登った所にあります。こじんまりとして落ち着きの
ある本堂は、万延元年(1860年)に一度消失し、明治41年(1908年)
に再建されたものです。

真福寺には堂守が居ないので、納経は山道を降りたところ
にある光明寺で行われています。

コメント: 車で行く場合、細く急な山道を登るので注意が必要です。

駐車場は有ります。本堂は木々に囲まれており、また近くに小川
があるからか、とても涼やかで静かな雰囲気のお寺でした。(吉本)

廻り来て願いをかけりし大棚の

誓も深き谷川の水



秩父札所甲午歳総開帳

常泉寺

補陀落は岩本寺とおがむべし

峰の松風ひびく
滝津瀬

この寺院は江戸時代初期に札所となりました。聖観音が、あり観音堂は、一番四葉部寺を造営した藤田徳佐衛門の作と云われています。こちらは明治三年に秩父神社にあった薬師堂を移築したものです。聖観音は室町時代の作で、かつての観音堂が焼けた際に胸部を火傷、その跡が今も残っているそうです。

本堂には寺宝の子持石があります。形が赤ん坊に似ていますが、この石を抱くと子宝に恵まれると言われています。



こんな形です。

3番行くならココを見よう!

かご龍



屋根の張り出した部分(向拝)と本陣(観音様)が安置されているところ(三つ)を結ぶ虹梁(ニラリょう)が龍のかご彫りになっています。これは玉井村(現熊谷市)の飯田和泉の作で、彼は秩父の多くの社寺に関わった名工なんだそうです。

ココ!
龍の形に彫られています。とっても細かいです。



田園の一本道を進むと常泉寺です。春は桜も咲いていてキレイですよ!

秩父丸所甲午歳総開帳

金昌寺

あらかたに参りて拜む 観世音

二世安楽と 誰も祈らん

入ると石仏がずらりと並んでいます。これは一六二四年に当時の住職が千体の石仏安置を發願し、全国から集まったものです。(当時集まったのは三八〇〇体、現在残っているのは一三〇〇体ほどだそうです。)

本尊の観音様は十一面観音で、鎌倉時代の作と言われています。また、こちらには奥の院があり、本尊には弘法大師像がいます。



慈母観音像

観音堂回廊の右端にあま慈母観音像。江戸時代、やうと授けた子供と妻を相次いで失った人が浮世絵師(これが有名な喜多川歌麿だともいわれています。)に下書きさせたと言われています。

注目してほしいのは蓮台の裏、カエルの彫刻があります。このカエルを「聖三カエル」と考え、隠れキリシタンが礼拝の対象にした「マリア観音」とする説もあります。

納経帳につけてくれるスタンプも慈母観音です



4番行くならココを見よう!



早ごころ はたおと秩父

そもそも銘仙とは？

銘仙とは、絹の平織りものの総称です。
 (平織とは、よこ糸とたて糸を交互に織ること)
 名前の由来は諸説ありますが目が細かいので「目千」と呼ばれていたなどです。現在の漢字にしたのは銀座三越で、銘品の「銘」に、仙境で織られていることから「仙」の字をあてたそうです。
 銘仙はもともと商品にできないくらい絹を使って織る「太織」からスタートしていて、現在皆さんが知る銘仙の大胆な柄になったのは、品質をこまかすためだったそうですよ！

銘仙豆知識

今回はちちぶ銘仙館の豆知識です。
 入ってすぐ右手に「坂本宗太郎像」があります。
 (坂本宗太郎さんは、ほぐし捺染考案者です)
 実はこの像、皆さんご存知の長崎にあき平和記念像を造った方の作品なんだそうです。
 作者は北村西望さん、奥さんが秩父に縁のあき方だとか！
 お立ち寄りの際はぜひチェックして下さい！



銘仙館のほぐしの木ズです。



みんなカンジです

Facebookページ
 秩父市
 地域おこし協力が
 もあります！

作成：秩父市地域おこし協力が
 佐俣 菜津子

お問い合わせ
 秩父市役所 産業観光部商工課
 (地場産センター3F)

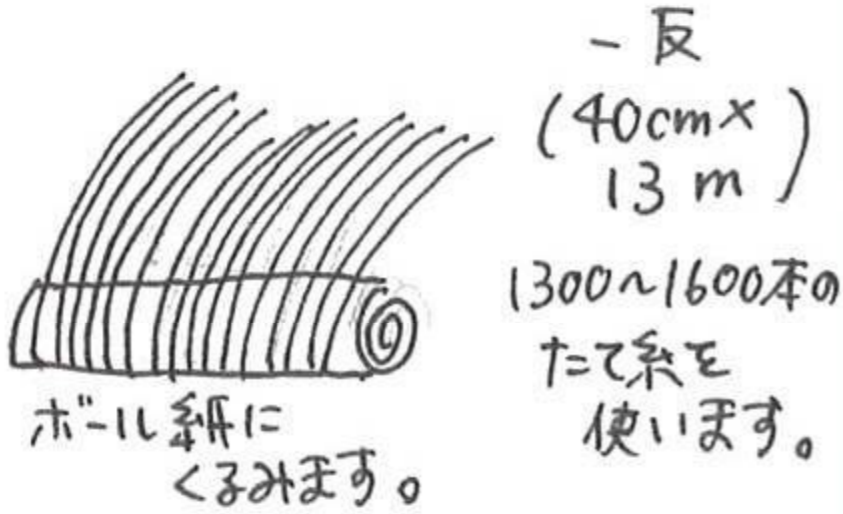
TEL: 0494-25-5208
 MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp

ざっくり!

秩父銘仙が できるとまで

START!

① 整経機という機械で、たて糸をそろえます。



② 仮織機でざっくりよこ糸を織ります。



これでたて糸を固定します。

③ たて糸に型紙で柄を染めます



④ 型紙は1色に1枚。位置がズレるとアウトです。

④ 色を定着させた後、よこ糸を織ります。



※ この時に②で織ったよこ糸をほぐしながら織ります。この技法をほぐし捺染と呼んでいます。



⑤ 成!
 全ての工程をちちぶ銘仙館で見ることが出来ます!